日経平均株価
３万８７８７円３８銭
▼１３２円８８銭（前日比）
ＴＯＰＩＸ
２７４５．６２
▲８．０８（前日比）

株式市場新聞
www.marketpress.jp
2024
5/20
月曜日
発行元　株式会社 株式市場新聞社
〒541-0058
大阪市中央区南久宝寺町３丁目２-７
TEL 06-6105-1904

# ここから狙える半導体は？

## ディスコやＴＯＷＡなどに注目

主要企業の決算発表が一巡した。昨年からの指数の上昇を牽引した半導体を中心とするハイテク株はマーケットの期待値が高すぎた故にアナリストコンセンサスを下回る次期予想から決算発表後に売られる銘柄も少なくなかった。しかしながらこれら銘柄はＡＩの普及加速による中長期的な業績拡大は不変であり、ここからは銘柄が選別を進めたうえで改めてハイテク株の物色が始まると見ている。今後の業績予想から注目できる銘柄を個別でピックアップしてみた。

### ＡＩ普及で業績拡大不変

Ｍサーバー向けの引き合い増が続く。

**レーザーテック**（６９２０）２４年６月期は第３四半期累計で５８１億１００万円（前年同期比２・１倍）を計上、通期予想の６７０億円（前期比７・６％増）は十分達成可能。

**村田製作所**（６９８１）２５年３月期は連結営業利益で前期比４５・５％増の１２６億円を見込んでいる。民生品向け設備投資は低調さが続くものの、底打ち感は現れているうえ、生成ＡＩ拡大に向けたＨＢＭ（高帯域幅メモリ）需要増から通期はアナリストコンセンサス並みの１６５０億円（前期比３５・８％増）程度の大幅増益が期待される。

**ＴＯＷＡ**（６３１５）２５年３月期は連結営業利益で前期比２・５倍の３０００億円（前期比３９・２％増）を見込んでいるが、控え目な予想と見られる。パワーツール向けでリチウムイオン二次電池が、ＰＣ向けでコネクティビティモジュールが減少するものの、コンデンサがモビリティやコンピュータ向けで大きく増加する。

**太陽誘電**（６９７６）２５年３月期は連結営業利益で２００億円（前期比２・２倍）予想も更なる上乗せあるとの見方。

**ディスコ**（６１４６）２５年３月期は第１四半期のみの開示で連結営業利益で前年同期比５９・３％増の２７１億円の見通し。高性能のＳＰＥ（レーザー＋プラズマダイサー、グラインダー）需要増から通期はアナリストコンセンサス並みの１６５０億円（前期比３５・８％増）程度の大幅増益が期待される。

ＡＩ向けへの拡大基調は不変

### 日経平均の日足チャート

# 5月第1週の動意銘柄

## 日立続急伸し最高値

### 2桁増益で分割と自社株買い

3連休明け30日、**日立製作所**（6501）が続急伸、最高値を更新した。25年3月期の業績予想について、連結営業利益で前期比13・1％増の8550億円を見込んだ。同時に6月30日を基準日に1対5の株式分割を行うことと、発行株の2・27％にあたる2100万株、2000億円を上限にした自社株買いを発表したことで買い気が盛り上がった。

### エムスリ急落し新安値

**エムスリー**（2413）が急落、年初来安値を更新した。前24年3月期決算を発表、連結営業利益で前の期比10・6％減の643億8100万円となり、続く今期も670億円～700億円と回復が鈍いことが嫌気された。製薬マーケティング支援においては、新型コロナウイルスに関連した売上の剥落や製薬企業の予算トレンドが改善するタイミングについて依然不透明感が高いという。

## レーザテク営業益倍増

1日、**レーザーテック**（6920）が急伸。24年6月期第3四半期累計の連結営業利益が581億1000万円（前年同期比2・1倍）と大幅に拡大、通期計画の670億円（前期比7・6％増）に対する進捗率は86・7％に達し、受注高が1488億5100万円（前年同期比16・2％増）に伸びていることから収益上振れが期待された。生成AI向けHBMやパワー半導体への投資が堅調で、最先端のEUVリソグラフィを用いた半導体製造の増強投資も回復の兆しが見られた。

### 日揮HD営業赤字へ修正

**日揮ホールディングス**（1963）が急落。24年3月期の業績予想を修正、連結営業損益で1600億円の黒字から1900億円の赤字（前の期3666億9900万円の黒字）となった。設計の配員状況や中東での資機材の需給逼迫による納期遅延などによる採算悪化を考慮し、るリスク対応費用を追加的に見込んだ。

### ペプチドリム提携拡大

**ペプチドリーム**（4587）がストップ高。この日、スイスNovartis社とのペプチド創薬における提携拡大を発表したことが好感された。今回の契約は、2019年に発表したペプチド―薬剤複合体（PDC）の共同研究開発の取り組みを拡大するもの。

### ネクスGはAI共同研究

**ネクスグループ**（6634）が急伸。レグラス（東京都千代田区）と、会話型AIにおけるエッジAIコンピュータ「AIX―01NX」を利用した画像解析との連携について、共同研究を開始すると発表した。共同研究では、AIの目となる「AIX―01NX」上での画像解析と、会話型AIとの組み合わせの有効性と市場性を見極めることを目的とし、病院やホテルの受付、大型店舗、観光・交通案内など多用なシーンで活用できる新しいサービスの共創を目指している。

## 正直じいさんの株で大判小判

### 半導体・AI関連へ買い出動

前週の東京市場は反発。日経平均は前の週から558円上昇しています。米4月消費者物価指数（CPI）が予想を下回り利下げ期待が再燃、米国市場で主要指数が最高値を更新したことをフォローに水準をのあと値を重さが意識は大引けに円超の上昇クしていまり基調を確週明けはるエヌビディアです。米長期金か、決算がポジスクオンの動きでしょう。ディ部仕込みを終えが、状況を確認しながらチェックした好決算銘柄のなかから半導体・AI関連へ本格的に買い出動する考えです。

**花咲 翁**

切り上げました。朝高消す日が続き、上値のされましたが、16日かけ引き戻し、500で上値抵抗帯をブレイす。緩やかながら出直かにしました。

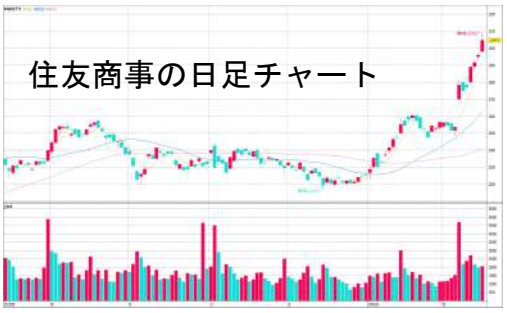
22日に予定されていの決算が最大の関心事利が低下傾向にあるなティブなら世界的にリが強まる可能性があるスコやTOWAなど一ました

# 5月第2週の動意銘柄

## 住友商事は最高値

### 37%増益で自社株買いも

**住友商事**（8053）が買い進まれ、2日、上場来高値を更新した。25年3月期は連結純利益で前期比37・2%増の5300億円を見込んだこと好感された。新中期経営計画では26年度に純利益で6500億円を計画。併せて上限1900万株（発行済株式総数に対する割合約1・6%）、または5000億円の自己株式取得枠の設定を発表した。




### ヨシコン22%営業増益

連休明け7日、**ヨシコン**（5280）がストップ高。25年3月期は連結営業利益で前期比22・1%増の37億円を見込んだ。地元密着型仕入れと実需に基づいた企画を徹底し、販売用不動産の回転率を高めていく。

### イビデンは2ケタ減益

**イビデン**（4062）が急落。25年3月期の業績予想を発表、連結営業利益で前期比11・7%減の1420億円と減益を見込んだことが嫌気された。生成AI用サーバー向けの需要は引続き堅調に推移しているが、パソコンや汎用サーバー向けの需要は厳しい状況が継続している。

### Birdmanは3Q営業損失

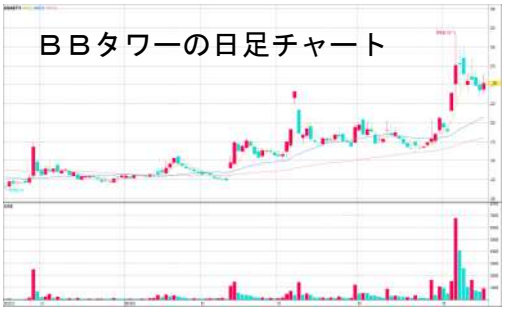
**Birdman**（7063）が急落。24年6月期第3四半期に営業損失を計上する見込みと発表した。国内最大級の音楽フェスティバル、ROSSvol.3を1月に開催したが、チケットの売り上げが当初計画を大幅に下回ったという。

### ストリームM24%増益

**ストリームメディアコーポレーション**（4772）が後場急伸。24年12月期の第1四半期決算を発表、連結営業利益で前年同期比23・6%増の2億3200万円と大幅な増益となったことが好感された。大型コンサートを中心に16公演開催し、約55万人を動員した。

# BBタワーがS高

## 第1四半期営業黒字に浮上




7日、**ブロードバンドタワー**（3776）が急伸、ストップ高まで買われた。同社は2日の取引終了後、24年12月期の第1四半期（1～3月）決算を発表、連結営業利益で7600万円（前年同期3400万円の赤字）となったことが好感された。新大手町サイトの契約率・稼働率が高水準を維持するなか、データセンターのサービス全体の構造改革を推進したことで黒字に浮上した。

## 三菱重コンセンサス届ず

**インソース上振れ期待**

8日、**三菱重工業**（7011）が急落。同社はこの日13時30分に25年3月期の業績予想を発表、連結事業利益で前期比23・9%増の3500億円と増益を見込んでいるも、アナリストコンセンサスを下回ったことが嫌気された。

**インソース**（6200）がストップ高。前日取引終了後に発表した24年9月期第2四半期累計の連結決算は。営業利益24億円（前年同期比24・4%増）で着地、通期予想は45億9000万円（前期比16・5%増）を据え置いたが、直近3カ月の1～3月期の増益率は3割を超えており、収益上振れを期待した買いを集めた。

**チャームケア82%増益**

**チャーム・ケア・コーポレーション**（6062）が大幅に3日続伸。同社は7日の取引終了後、24年6月期の第3四半期累計（7～3月）決算を発表、連結営業利益で前年同期比81・8%増の24億7800万円となった。課題としていた高価格帯ホームにでは、最高価格帯ブランドの「チャームプレミアグラン」シリーズにおいて単月の入居率が95%を超えるに至ったホームもあり、徐々に高稼働ホームが増えている。

## ロームは68%営業減益

9日、**ローム**（6963）が急落。25年3月期は連結営業利益で前期比67・7%減の140億円と大幅な減益を見込んだことが嫌気された。産業機器市場は下期には回復基調に転じると見込むものの、上期においては在庫調整や需要低迷による厳しい環境が続くとしている。

**コーセーがストップ高**

**コーセー**（4922）がストップ高まで買われた。24年12月期の第1四半期（1～3月）決算を発表、連結営業利益で前年同期比35・5%増の79億200万円と大幅な増益となったことが好感された。アルビオンの「エレガンス」が大きく伸び、メイクアップブランドの「ジル スチュアート」が堅調に推移した。

**レノバ大幅減益続く**

**レノバ**（9519）が急反落。25年3月期の連結業績で、営業利益10億円（前期比80・1%減）と前期に続いて大幅減益を見込んだことが嫌気された。前期に運転を開始したバイオマス発電所の通年寄与と御前崎港バイオマスの運転開始により、売上高718億円（同60・5%増）と大幅増収を見込むが、発電所運転開始に伴う償却費負担が収益を圧迫する。

## 転ばぬ先のテクニカル

### 買いシグナル点灯

先週の東京株式市場は反発しました。このところ上値を押さえていた２５日線、７５日線、５月限ＳＱ値を突破したことに加え、４月１９日安値（３万６７３３円）以降の戻り高値であった５月７日高値（３万８８６３円）をブレイクし日足二段上げとなったことで買いシグナルが点灯しました。これらの変化により３月２２日高値（４万１０８７円）以降の調整波動は４月１９日で完了し、再び上昇波動入りしたものと思われます。

今後の押し目は今までレジスタンスラインと意識されていた３万８５００円近辺がサポートラインとして機能することでしょう。先週で決算発表がほぼ一巡し１６日段階の日経平均の一株利益（ＥＰＳ）は２３５８．８０円となり、株価収益率（ＰＥＲ）は１６．５倍に低下しました。今後は３月末のＰＥＲ１７倍まで買われるとして計算すると４万０１００円がターゲットとなりえます。

日々勇太朗

特選銘柄

新コスモス電機（6824）

# 化学物質測定新製品投入

## 4月の省令改正施行でニーズ高まる

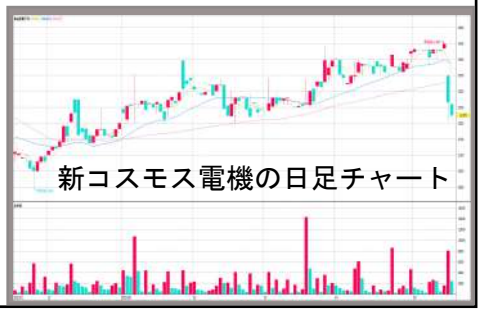
**新コスモス電機**（６８２４）は家庭用ガス警報器でトップを誇り、独自のガスセンサー技術への評価は高く、電力業界や石油化学業界向けなどの定置式ガス検知警報器や業務用携帯型ガス検知器を含めて幅広く製品を展開している。

家庭用ガス警報器では海外市場で米国向け電池式メタン警報器や中国向け家庭用警報器の販売が好調に推移。工業用定置式ガス警報器ではエレクトロニクス業界向けをはじめとして海外向けガス検知警報機が伸びており、２５年３月期は連結売上高で４１６億６１００万円（前期比８．１％増）と増収を計画している。

作業場などの化学物質をリアルタイムに測定するハンディタイプの「化学物質リアルタイムモニタ ＸＰ－３３２０ＩＩ－Ｖ」を４月１０日から新たに発売。作業場などの化学物質をリアルタイムに測定し、健康被害リスクの見積り・効果確認に使用が可能。労働安全衛生法で化学物質の管理について法令による対策が強化されるなかで、２３年４月に続き２４年４月も省令改正に伴う一部施行も行われることからニーズが高まろう。

### 海外展開にも期待

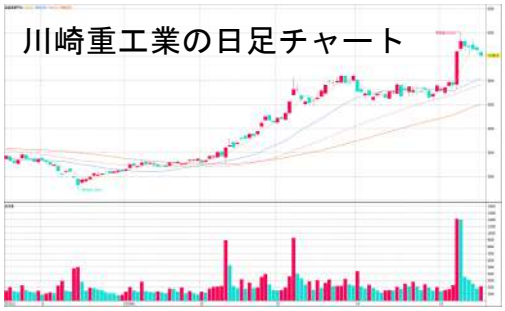
海外ではシカゴの１００％出資現地法人「Ｎｅｗ Ｃｏｓｍｏｓ ＵＳＡ，Ｉｎｃ.」を通じてアメリカ全土へのメタンガス検知器の横展開とガス事故が起こっている世界中の国々への展開も引き続き期待できよう。




# 川崎重S高で最高値

## 25年3月期2．8倍事業増益

**川崎重工業**（７０１２）が後場急伸、９日、ストップ高まで買われ上場来高値を更新した。同社はこの日１１時３０分に２５年３月期の業績予想を発表、連結事業利益で前期比２・８倍の１３００億円を見込むことが好感された。航空宇宙システム事業における防衛需要の増加とパワー




スポーツ＆エンジン事業における四輪増産などによる増収を計画している。

# 芝浦メカは上振れ着地

週末１０日、**芝浦メカトロニクス**（６５９０）がストップ高。同社は９日の取引終了後、２４年３月期決算を発表、連結売上高で従来予想の６６０億円に対して６７５億５６００万円（前の期比１０・７％増）、営業利益で１０５億円に対して１１６億８７００万円（同７・２％増）と上振れ着地したことが好感された。保守サービスと半導体分野が伸びており、年間配当を１７０円から２００円へ引き上げた。

## サイババズ赤字へ修正

**サイバー・バズ**（７０６９）がストップ安まで売られた。同社は９日の取引終了後、２４年９月期の業績予想の修正を発表、連結最終損益で２億８０００万円の黒字から１９億３５００万円の赤字（前期２億５００万円の黒字）へ下方修正したことが嫌気された。第２四半期において２２億１５００万円の貸倒引当金繰入額（販売費及び一般管理費）を計上した。

## 日新24％の自社株買い

**日新**（９０６６）がストップ高買い気配。９日取引終了後、４５０万株、１４０億円を上限とした自社株買いをこの日立ち合い開始前の自己株式立会外買付取引（ＴｏＳＴＮｅＴ－３）で実施すると発表した。上限株数は発行済株式総数の２３・６１％にあたり、株価浮揚効果が大きいとの判断から買いを集めた。

# ～決算情報～

## ＴＯＡ

## 今期も22%増益見込む

### デジタルシフトとサプライチェーン効率化

ＴＯＡ（６８０９）の２４年３月期の連結決算は、売上高４８８億１４００万円（前の期比８．２%増）、営業利益３０億２８００万円（同７６．８%増）と増収大幅増益で着地した。

国内は交通市場向けが伸長。海外ではアメリカで官公庁や教育市場向け、カナダで病院や教育市場向けの納入が進み、為替の影響で売上高が増え、利益が大幅に拡大したほか、アジア・パシフイック、欧州・中東・アフリカ、中国・東アジア向けいずれも売り上げが伸び、利益が拡大した。

２５年３月期は売上高５２０億円（前期比６．５%増）、営業利益３７億円（同２２．２%増）を予想した。中期経営基本計画に沿ってデジタルシフトとサプライチェーン効率化を進めることで売り上げ、利益を拡大する。

## ハリマ化成Ｇ

## 収益体質強化と販売増

### 前期赤字縮小し今期黒字浮上

**ハリマ化成グループ**（４４１０）の２４年３月期の連結決算は、前回予想の売上高９３０億円に対して９２３億３０００万（前の期比２．３%減）、営業損益４億５０００万円の赤字に対して２億１１００万円の赤字（前の期１７億６００万円の黒字）で着地、欧州の景気低迷によるローター事業の販売減少で売上高は計画を下回ったが、国内事業での値上げ効果と合理化による原価低減により赤字幅が縮小した。

２４年３月期は売上高１０２０億円（前期比１０．５%増）、営業利益２１億円を予想。収益体質強化と景気回復に伴う販売増により、２ケタ増収で黒字に浮上する。配当は第２四半期末、期末各々２１円、合わせて年間４２円を継続。

# 5月第3週の動意銘柄

## TOWA続騰し最高値

### 25年3月期46%営業増益

週明け13日、ＴＯＷＡ（６３１５）が続騰、最高値を更新した。２５年３月期の業績予想を発表、連結営業利益で前期比４５・５%増の１２６億円を見込んだことが好感された。足元の民生品向け設備投資は低調さが続くものの、底打ち感は現れており、徐々に設備投資需要は回復すると予想。生成ＡＩ大に向けたＨＢＭ一バー向け投資については堅調な需要が続くとしている。

## パイオラックスS安

**パイオラックス**（５９８８）がストップ安。２５年３月期の業績予想について連結営業利益で前期比２４・３%減の３６億円と減益を見込んだ。自動車業界では原材料費・エネルギー価格高騰の影響や中国における日系メーカーの販売低迷など状況は一層厳しくなると見ている。

## アシックス株式分割

**アシックス**（７９３６）がストップ高。10日の取引終了後、２５年３月期の業績予想を発表、連結営業利益で前期比７・０%増の５８０億円を見込んでいる。同時に６月３０日を基準日として１対４の株式分割を行う。

## カバー32%増益

**カバー**（５２５３）が大幅続伸。２５年３月期は連結営業利益で前期比３１・８%増の７３億円を見込んだ。

14日、ＶＴｕｂｅｒビジネスの確立、ＩＰビジネスへの進化、クリエイター経済圏の拡大の３段階の事業戦略を定め、内製での事業開発、外部企業との戦略的パートナーシップ、Ｍ＆Ａなどにより能力拡充を図り、持続的な成長を目指す。同時に東証プライム市場への市場区分変更申請に向けた準備を進めることを発表した。

# ～決算情報～

## カプコン

## 25年3月期8期連続最高益

### 「祇（くにつがみ）」などの新作投入

**カプコン**（９６９７）の２４年３月期は連結売上高１５２４億１０００万円（前の期比２１．０％増）、営業利益５７０億８１００万円（同１２．３％増）ととなった。ｅスポーツ展開をリードする「ストリートファイター６」や２４年３月に発売した「ドラゴンズドグマ２」に加えて、ＩＰ認知拡大と新たなファン層の獲得を図るプロモーションなどが寄与した。

２５年３月期は売上高１６５０億円（前期比８．３％増）、営業利益で６４０億円（同１２．１％増）と１２期連続の営業増益かつ全ての利益項目で８期連続最高益を見込む。完全新作タイトルの「祇（くにつがみ）」などの新作投入を計画して「全社一丸となって成長戦略を進める」（**宮崎智史副社長執行役員ＣＨＯ**）と意欲を見せている。

## タクミナ

## 3期連続の最高益を計画

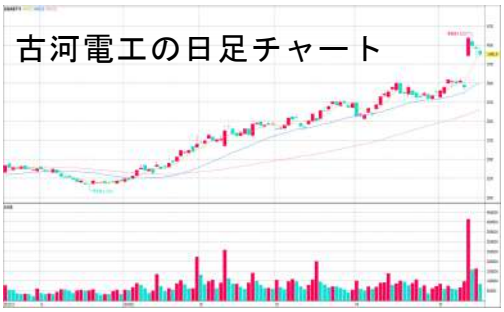
### 高性能ソリューションポンプの伸び続く

**タクミナ**（６３２２）の２５年３月期は連結売上高で１１５億円（前期比４．４％増）、営業利益で１６億円（同１．１％増）、純利益で１２億円（同０．４％増）と４期連続での増収増益かつ３期連続での最高益を見込んでいる。高性能ソリューションポンプは主力製品の「スムーズポンプ」が二次電池関連の設備投資需要に支えられて前期は前の期比１３．９％増の４４億２３００万円と大幅に拡大、汎用型薬液注入ポンプやケミカル移送ポンプ、計測機器・装置などを含めて全部門で増収を達成している。大阪取引所での決算会見の席上、**山田圭祐社長**は「中長期視野でのＥＶに絡む設備投資意欲は衰えていない」として自動車業界向け筆頭に高性能ソリューションポンプの更なる拡大に意欲を見せた。

## 古河電大幅高で新値

### 前期大幅上振れ今期営業益倍増

**古河電気工業**（５８０１）が大幅高で年初来高値更新。１４日、２４年３月期の連結決算は営業利益１１１１億７１１０万円（前の期比２７・７％減）と減益ながら、従来予想の５０億円を大きく上回り、２５年３月期は２５０億円（前期比２・２倍）と大幅な利益拡大を見込んだ。国内の電力プロジェクト案件の増加や自動車生産の拡大、高付加価値品の拡販、生産性向上により収益性が大きく改善する。




## バルカーがストップ安

**バルカー**（７９９５）がストップ安まで売られた。２５年３月期の業績予想を発表、連結営業利益で前期比８・５％減の６５億円と前期に続き減益を見込んでいることが嫌気された。先端産業市場向けは半導体関連景況の変動を受けて減少している。

## サワイ4割増益分割増配

**サワイグループホールディングス**（４８８７）が一時ストップ高まで買われた。２５年３月期の連結業績で、営業利益２６０億円（前期比３９・６％増）と大幅増益を見込み、併せて９月末に１株を３株へ株式分割、実質増配を計画したことを好感した買いを集めた。薬価下支えの影響や価格政策の見直しにより収益性が大きく改善する。

## ミツコシイセタン4連騰

１５日、**三越伊勢丹ホールディングス**（３０９９）が大幅に４日続伸した。同社は１４日の取引終了後、２５年３月期の業績予想を発表、連結営業利益で前期比１７・７％増の６４０億円を見込むことが好感された。同時に上限８５０万株（発行済株式総数に対する割合：２．３％）または１５００億円の自己株式取得枠の設定を発表した。取得期間は１５日から１０月３１日までで、取得した全株式を１１月２９日付で消却する。

# ～決算情報～

## 六甲バター

## 1Q減収ながら黒字浮上

### チーズ製品の値上げ効果大きい

**六甲バター**（２２６６）の２４年１２月期第１四半期の単体決算は、売上高１０３億１４００万円（前年同期比３．２％減）、営業利益４億４３００万円（前年同期２億７５００万円の赤字）、最終利益３億６９００万円（同２億１１００万円の赤字）と減収ながら黒字に浮上した。

５月末にチョコレート製品の販売を終了したことから売上高が減少したが、チーズ製品の値上げ効果が大きく、原材料の安定調達や経費削減、生産ラインの安定稼働により損益が改善した。

通期は売上高４５３億円（前期比２．３％増）、営業利益１８億円（同２．９倍）、最終利益１０億５０００万円（同２．４倍）と前回予想を据え置いた。年間配当は２０円を計画。

## 大和ハウス工業

## 実質最高業績更新つづく

### 配当下限を145円に引き上げ

**大和ハウス工業**（１９２５）の２４年３月期の連結決算は前回予想を上回り、売上高５兆２０２９億１９００万円（前期比６．０％増）、営業利益４４０２億１０００万円（同５．４％減）で着地した。米戸建住宅の好調が続き、開発物件の売却も順調で、売上高は５兆円を突破して過去最高を更新、退職給付数理差異の影響を除くと実質増益で営業利益も過去最高になった。

２５年３月期は売上高５兆２５００億円（前期比０．９％増）、営業利益４０００億円（同９．１％減）を見込む。増収で数理差異の影響を除くと営業利益も実質増益で過去最高を更新することになり「新中期計画で配当の下限を１４５円に引き上げた」（**芳井敬一社長**）としており連続増配を予定。

# ソニーグループ3連騰

## 1対5株式分割と自社株買い

15日、**ソニーグループ**（６７５８）が３連騰。14日の取引終了後、25年３月期の業績予想を発表、連結営業利益で前期比９・２％増の１兆１３００億円とアナリストコンセンサスを下回ったが、９月30日を基準日として１対５の株式分割と３０００万株（発行済株式総数に対する割合：２・４６％）または２５００億円の自己株式取得枠の設定を発表したことが好感された。

## 堀場製作所は急落

**堀場製作所**（６８５６）が急落。14日の取引終了後、24年12月期の第１四半期（１～３月）決算を発表、連結営業利益で前年同期比４・２％減の１００億９００万円と減益となったことが嫌気された。製品売上構成の変化に伴う利益率の低下に加え、水素ビジネスでの積極的な投資を継続したことなどが要因。

## Kudanモビリティ実証

**Kudan**（４４２５）が大幅反発。日系大手自動車メーカーのプラットフォーム型自律移動モビリティの実証・開発に協力したと発表した。同社の人工知覚技術の性能と実装能力が着目され、地図作成と自己位置推定の機能を搭載して実証・開発に活用することになった。今回の協業を踏まえて自動車ＯＥＭが予定するフィールド実証に引き続き協力、性能・運行性向上、革新的な活用ユースケースの創出に取り組むとしており、自動車分野への人工知覚技術実装を期待した買いが向かった。

# 和弘食23%営業増益

**和弘食品**（２８１３）がストップ高。25年３月期は連結営業利益で前期比２２・９％増の１８億２９００万円と大幅な増益を見込んだ。北米のラーメン市場拡大により、主要販売先である外食向け業務用製品の販売が引き続き好調という。

# ～決算情報～

## 立花エレテック

## 24年3月期過去最高業績

### 25年3月期は下期から巻き返し

**立花エレテック**（８１５９）の２４年３月期決算は連結売上高で２３１０億４２００万円（前の期比１．７％増）、営業利益１０７億６４００万円（同４．３％増）、純利益８４億７１００万円（同８．０％増）と過去最高業績を達成した。半導体デバイスとその他以外ではＦＡシステム、施設で増収を達成。施設事業はデータセンター向け受変電設備が伸長し、前の期比で１９．７％増収を達成している。

２５年３月期は売上高２２８０億円（前期比１．３％減）、営業利益１００億円（同７．１％減）、純利益７０億円（同１７．４％減）を見込む。半導体デバイス事業は在庫調整の影響が継続するとし、決算発表の席上、**布山尚伸社長**は「下期に売り上げを積み増している」とし下期回復を見通す。

## 英　和

## 24年3月期は上振れ着地

### 稼働率上昇、付加価値営業で採算向上

**英和**（９８５７）の２４年３月期は連結売上高で従来予想の４２０億円に対して４３２億９２００万円（前期比４．９％増）、営業利益で２２億５０００万円に対して２３億２５００万円（同２２．８％増）と上振れ着地した。トラックシャーシの供給不足の影響を受け、防災・復旧、国土強靭化に関連する特殊車両の販売が減少したが、昨年度から積み上がった受注残を着実に売り上げへ転化したことに加え、設備稼働率の上昇に伴い、造船業界、産業用装置・重電設備業界向けの販売が増加。高付加価値営業の強化に取り組んだことで採算性も向上した。２５年３月期は売上高４４０億円（前期比１．６％増）、営業利益２３億５０００万円（同１．１％増）を見込み、年間配当は７０円（前期６５円）へ引き上げる。

## スターティア一時S高

### 今期も増益見込み大幅増配

**スターティアホールディングス**（３９３３）が一時ストップ高まで買われ、年初来高値を更新した。同社は１５日の取引終了後、２５年３月期予想を発表、連結営業利益で前期比９・５％増の２５億円と前期の３２・４％増益に続き増益を見込むことに加えて、年間で９７円（前期６９円）と大幅な増配意向であることで、利回り妙味からも買いを集めた。

## 住石HD連続ストップ高

週末１７日、**住石ホールディングス**（１５１４）が連続ストップ高。１５日に筆頭株主の麻生と資本業務提携すると発表したことが引き続き材料視された。麻生は同社の議決権割合の４９・０８％を保有するが、市場で買増し議決権保有割合を５０・０％超６０・０％以下に高め、連結子会社化する。主力の石炭事業の安定的長と九州地区での事業拡大、新規事業でも協業を強めるとしている。

## レアジョブ71%営業減益

**レアジョブ**（６０９６）が大幅に３日続落。２５年３月期の業績予想では連結営業利益で前期比７１・３％減の２億円と大幅な減益となることが引き続き嫌気された。リスキリング事業では、より「英語が話せるようになる」サービスを目指して、学習サイクルの改善やテクノロジーの活用による学習体験の向上に取り組み、オンライン学習サービスの高付加価値化を推進する。

## 日製鋼防衛受注6割増

**日製鋼所**（５６３１）が大幅続伸、上場来高値を更新した。決算説明会で２５年３月期の防衛事業の受注額が前期比６割増の１１３０億円を予想した。防衛事業受注額は２３年３月期の３６１億円から２４年３月期には７０５億円に倍増、受注全体の３割を占めるに至っており、受注拡大ピッチ加速に伴う収益押上げが期待された。

# ～決算情報～

大森屋

## 2Qは計画を大幅に超過

### 業務用需要増と価格改定で大幅増加

**大森屋**（２９１７）の２４年９月期の第２四半期累計（１０～３月）決算は、連結売上高で従来予想の７３億５０００万円に対して８１億９０００万円(前年同期比１７．０％増)、営業利益で１億７５００万円に対して３億７００万円（同１．６％増)、純利益で１億１０００万円に対して２億１１００万円（同８．９％増）と計画を大幅に超過して着地した。業務用海苔がコンビニエンスストアなどの需要増と価格改定の影響により大幅に増加し、家庭用海苔も順調に推移。利益面では、コスト削減、経費の効率的な使用に加え、価格改定が消費者に受け入れられた。

通期は売上高１４９億円(前期比４．６％増)、営業利益４億１５００万円（同１０．７％増)、純利益２億６０００万円（同６．３％増）の従来予想から変更はない。

あじかん

## 24年3月期営業益4．9倍

### 野菜加工品、冷凍食品や輸出も拡大

**あじかん**（２９０７）は２４年３月期決算は連結売上高５０２億４０００万円（前の期比５．９％増)、営業利益１７億１０００万円（同４．９倍)、純利益１５億９００万円（同５．７倍）と大幅な増益となった。

価格改定の浸透や、野菜加工品、調理済冷凍食品なが拡大したことや、北米・オセアニアなどを中心とした海外輸出拡大藻収益を押し上げた。

２５年３月期は売上高５１０億円（前期比１．５％増)、営業利益１６億円（同６．４％減)、純利益１２億円（同２０．５％減）を見込む。業務用食品では、玉子製品の販売促進に加え、生産効率の向上に向けた取組強化、物流効率改善に向けた物流拠点の整備を進める。ヘルスフードでは、新製品開発とともに、焙煎ごぼうを活用した新市場開拓を進める。

eＷｅＬＬ

## 契約ステーション数大幅増

### 第1四半期23%増収で増益着地

ｅＷｅＬＬ(５０３８）の２４年１２月期の第１四半期（１～３月）決算は売上高５億７４００万円（前年同期比２３．４％増)、営業利益２億３４００万円（同４．９％増)、純利益１億６１００万円（同４．４％増）と増収増益で着地した。

主力サービスの「ｉＢｏｗ」の新規顧客獲得と「ｉＢｏｗ事務管理代行サービス」の推進に注力し、１Ｑ末での契約ステーション数は２６９８件（前年同期比１７．９％増）と大幅に増加、月次平均解約率（レベニューチャーンレート）は０．１５％と例年通り低い水準で推移した。

通期は売上高２５億６０００万円（前期比２３．７％増)、営業利益１１億１１００万円(同２２．３％増)、純利益７億４９００万円(同２２．３％増）と従来予想を据え置いた。

荒川化学工業

## 2桁増収黒字浮上見込む

### 全事業増収で機能コーティング利益倍増

**荒川化学工業**（４９６８）は２５年３月期の連結業績について、売上高８２０億円（前期比１３．５％増)、営業損益２０億円の黒字(前期２６億１７００万円の赤字)、最終損益１８億円（同４９億４１００万円の赤字）と２ケタ増収で黒字浮上を見込んだ。

千葉アルコンの減価償却負担は重いが生産量は順調に拡大。拠点やプラントの統廃合を含む既存事業の新陳代謝加速と「付加価値製品を拡販することで収益力を強化する」（**高木信之社長**）考え。全事業増収で機能性コーティングが利益倍増、製紙・環境も２ケタ増益、ファイン・エレクトロニクスは黒字浮上を見込み、粘接着・バイオマスは大幅に赤字を縮小する。さらに、光硬化型樹脂や精密研磨剤などの新プラントが完成、半導体など先端材料用ファインケミカルプラント建設も進める。

# ～決算情報～

## ステムセル研究所

## 大幅増収増益で最高業績

### 設立25周年記念して25円の初配当

**ステムセル研究所**（７０９６）は２５年３月期の単体業績について、売上高３０億円（前期比２０．９％増）、営業利益６億円（同４５．０％増）、最終利益５億円（同６０．８％増）と前期を上回る大幅増収増益で連続最高業績更新を見込んだ。

投資先の株式売却による特別利益１３６９３万円を計上することから、第２四半期末に設立２５周年を記念して２５円の初配当を実施する。

主力の細胞バンク事業でデジタル・マーケティングとリアル・マーケティングを着実に推進。中期的に保管検体数を出生数の３％程度まで高めることを目標に、独自ネットワークを活用した新プロダクトやサービス開発、関連企業への出資やM&Aを進めることで高成長を続ける。

## 日本トリム

## 25年3月期過去最高業績

### 前期は計画超で29．5%営業増益

**日本トリム**（６７８８）の２４年３月期決算は連結売上高で２０４億１４００万円（前の期比１３．７％増）、営業利益３０億８００万円（同２９．５％増）と計画超での大幅増益となった。職域販売部門では、営業活動が正常化し、セミナー開催数がコロナ禍前の水準に回復してきたことに加え、スポーツ分野、美容分野における販路開拓が引き続き順調に進捗している。

２５年３月期は売上高２２８億円（前期比１１．７％増）、営業利益３５億７０００万円（１５．９％増）と共に過去最高を更新する見通し。インドネシアでのボトルドウォーターについては自社工場の建設も検討しており、決算説明会の席上、**森澤紳勝代表取締役会長兼ＣＥＯ**は「２０２７年３月期に売上高３２０億円を目指す」と意欲を見せた。

## グルメ杵屋

## 24年3月期は大幅計画超

### レストラン回復加速し黒字体質戻る

**グルメ杵屋**（９８５０）の２４年３月期は連結売上高で従来予想の３６４億６６００万円に対して３７０億３３００万円（前の期比２３．９％増）、営業利益で２８００万円に対して４億２２００万円（前の期３億８６００万円の赤字）、純利益で４億２２００万円に対して１０億９６００万円（同１１億５０００万円の赤字）と大幅な計画超で着地した。レストラン事業では、人流の回復やインバウンド需要の再開などにより業績回復は加速し、機内食事業も、航空会社各社の復便が進み、黒字体質に戻っている。

２５年３月期は売上高３９５億９３００万円（前期比６．９％増）、営業利益６億４９００万円（同５３．７％増）、純利益２億１５００万円（同８０．３％減）を見込む。レストラン事業では、コストの改善を行っていく。

## クオルテック

## 利益3Qで通期計画超過

### 分析検査や断面研磨工程作業好調

**クオルテック**（９１６５）の２４年６月期第３四半期累の単体決算は、売上高２８億１６００万円（前年同期比１０．６％増）、営業利益４億円（同２５．７％増）、最終利益２億６４００万円（同１４．４％増）と２ケタ増収増益で着地、売上高の進捗率は７８．２％と例年を上回り利益は通期計画を超過した。

信頼性評価は高単価で難易度の高い分析検査や断面研磨工程作業の受注が好調で、新規顧客からの受注やより高度なパワーサイクル試験の受注も伸長。微細加工は車載、メディカル分野の加工需要の回復が遅れているものの、その他事業では医療分野の受託試験や表面処理の基板評価が引き続き好調に推移している。

業績拡大に伴い、期末一括配当を４２円（前期３７円）へ増配を予定。

# ～決算情報～

DmMｉX

## 1Q減収減益ながら高進捗

### ハイブリッド業務や新事業開拓も

**ダイレクトマーケティングミックス**（７３５４）の２４年１２月期第１四半期の連結決算は、売上収益５９億４５００万円（前年同期比３１．６％減）、営業利益７億８４００万円（同５２．０％減）、最終利益４億５５００万円（同５７．６％減）で着地した。

インバウンド業務縮小により、減収減益を余儀なくされたが、通信インフラからのアウトバウンド／ハイブリッド業務受託は堅調に推移、新事業領域の開拓も進んだ。利益は高収益のスポット業務の受注もあり、通期予想に対しては高い進捗率で推移している。

通期は売上収益２１０億円（前期比２１．８％減）、営業利益１０億円（同１８．１％減）、最終利益６億５５００万円（同２．１倍）と前回予想を据え置いた。期末一括配当３円を継続する。

新コスモス電機

## 25年3月期は8．1％増収

### 家庭用、工業用、業務用とも堅調

**新コスモス電機**（６８２４）の２４年３月期連結決算は、連結売上高で３８５億６４００万円（前の期比３．６％増）、営業利益４０億８６００万円（同２８．２％減）、純利益２９億５９００万円（同２０．８％減）となった。

家庭用ガス警報器関連では米国向け電池式メタン警報器や中国向け家庭用警報器が堅調に推移。海外向け警報器用ガスセンサの販売も好調で工業用定置式ガス検知警報器関連では海外市場のエレクトロニクス業界向けと中国向けガス検知警報器の販売が好調に推移。業務用携帯型ガス検知器関連はの都市ガス業界向けと鉄鋼向けが好調。

２５年３月期は売上高４１６億６１００万円（前期比８．１％増）、営業利益４１億円（同０．３％増）、純利益２３億８０００万円（同１９．６％減）を見込む。

# 潮流　米国株に追いつかない日本株

## 財務省の圧力に逆らえない植田総裁

岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール
１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第１回Ｓ１グランプリ」にて１万人超の参加者の中から優勝。２００２年にＮＨＫ番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では２０２２年１月の夕刊フジ主催の「株－１グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。ｈｔｔｐ：／／ｍａｒｋｅｔｂａｎｋ．ｊｐ

５月１５日の米国株式市場で主要３指数が過去最高値を更新した。ダウ工業株３０種平均は３万９９３５ドルまで上昇し、４万ドルの大台に迫った。３月２８日以来、１カ月半ぶりの最高値更新となった。

多くの機関投資家が運用指標にするＳ＆Ｐ５００種株価指数は５３１１．７６まで上昇し、初めて５３００台に乗せた。ハイテク株比率が高いナスダック総合株価指数は１万６７４９．７まで上昇し、史上最高値を付けた。過去最高値を更新した背景は４月の米消費者物価指数（ＣＰＩ）でインフレ鈍化への期待が高まったからだ。

米経済が軟着陸（ソフトランディング）に至る筋書きを織り込む動きが加速した。米国株は利下げ期待が遠のき３月２１日から４月まで調整していた。この間のダウ平均の下落率は５．７％だ。この程度の調整しかしない米国株は相当強い。

インフレで物価が上昇しても個人消費は堅調で米国経済は衰えない。何年も前から米国はスタグフレーション（景気停滞とインフレの併存）になり、景気は後退するといっていた多くのアナリストは見通しを誤った。

米国は２０２２年３月から昨年、７月まで利上げを続けてきたが株式市場は上昇を維持してきた。米国は「利上げ→金利上昇→景気減速→株安」といった一般的な動きにはなっていない。

ダイキン工業の日足チャート

米国政府がコロナ禍で行なってきた大規模な財政支出が経済を支え、生成ＡＩといった技術革新が新たな需要を生み出し、経済を浮上させる役割を担っている。利下げ時期は遠のいてもいつかは必ず利下げを行なうだろうという期待が根強い。

歴史的にみて、利下げ転換までの期間が長くなること自体は株式市場にとって好都合なことなのだ。一方、日本の株式市場は日経平均が３月２２日に４万１０８７円の過去最高値を更新するまでは米国株以上に上昇基調が強かった。しかし、４月２９日に日銀が「円買い・ドル売り」の為替介入を行なった後は米株が上昇しても日本株は連動しなくなっている。

日本は「円高→株安」となる傾向が強い。さらに、植田日銀総裁は、円安が物価上昇に影響を与えていることを懸念し、利上げを行なうのではないかといったことを市場が警戒している。財務省の圧力には逆らうことができないのだろう。

潮流銘柄は**ダイキン工業**（６３６７）、**ＴＯＷＡ**（６３１５）、**ジャパンエレベーターサービスホールディングス**（６５４４）。

## 物価上昇で利上げを懸念

敏腕先物ディーラー

## ハチロクの裏話

# 買い残高水準上値重くする

## チャートは上昇を期待

先週の日経平均は前週末比約５５８円高となり、２週間ぶりに週足陽線となった。ＮＹダウが４万ドルに乗せるなど史上最高値を更新する好調な海外マーケットを受けて、日本もつれ高した感じはある。

先週は高く始まっても売りに押されるケースが多く、実需売りが出ている印象を受けた相場である。日経平均は３月末比で４％安と同期間の騰落率で見ると、主要２０指数で最下位となっている。

１～３月末まで約８０００円強値上がりしたので調整も仕方ないとも受け取れるが、上値を追う投資家は今のところいない。発表になった決算で今期予想が慎重であり、海外投資家にすると期待外れであったようだ。デフレ脱却と円安で大きな増益を期待していた投資家とずれがでているようだ。

１６日に発表された１～３月期のＧＤＰも年率換算で▼２・０％となり、内需のマイナスは四半期連続となった。特にＧＤＰの半分以上占める個人消費が前期比０・７％減で円安の影響での物価高の影響をもろに受けている。四半期連続のマイナスはリーマンショック時以来である。

円安の影響が日本にプラスに働くと期待していた投資家が日本経済全体の成長に確信を持てなくなってきたようだ。４月からは賃上げや減税により一時はプラスに転じると思われるが、やはり円安が続くと景気への懸念は続こう。

経済の急減速を回避できそうな米国と景気回復の懸念が残る日本との差が株価に現れているようだ。需給面でも相場の上値は重そうだ。５月１０日時点の信用買い残は約４兆６９７０万円、信用倍率は６・４４倍である。評価損率は▼５．８１％であるが、信用の買い残は高水準である。つまり、相場が上昇しても売り需要が多いということだ。この高水準な買い残を消化するまでは戻り売りのパターンとなりそうである。

チャートでは１３週線（３万９０３３円処）に頭を抑えられてる状況である。だが、５日移動平均線（３万８５２５円処）、７５日移動平均線（３万８６０３円処）を上回って引けており、上昇が期待できる状態である。週足の一目均衡表の転換線（３万８９１０円処）や１３週移動平均線を引け値で明確に抜けてくれば、上昇に弾みがついてこよう。

一方、下値は日足の一目均衡表の雲の下限（３万８３８７円処）が意識されているようだ。先週も雲の下限を大きく割り込んでスタートした時は後場から買いが入っていたようで、下値抵抗ラインといえよう。この水準には２５日移動平均線（３万８３７０円処）も位置し、意識されるとこだろう。その下は節目の３万８０００円が抵抗ラインとなりそうだ。

今週は３万８３００円～３万９２００円を想定する。上値が重いなりに堅調な相場展開を想定する。（ハチロク）

四半期連続のマイナスはリーマンショック時以来

**ハチロクのプロフィール**

証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、２２５先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における２２５先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

# 星野三太郎の 株街往来

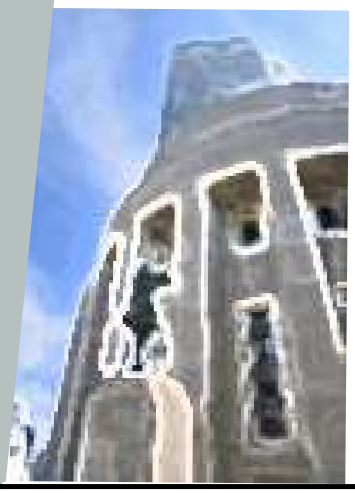
## ～夢から醒めて現実を見る～

主要企業の決算発表も峠を超えた。

例年ことながら、次期の業績について２ケタ増益予想の企業でも決算発表翌日は急落するケースも少なくない。決算内容への期待感で既に株価がある程度上昇していたことから利食い売りがでたり、アナリストコンセンサスが会社側予想よりもかなり強気の内容だったことを受けて悲観売りを浴びるケースが多い。アナリスト予想については、その企業の戦略に対してかなりの期待感を持っていることが多いことから、本来なら会社側の予想に悲観する必要はない。

決算発表で会社側の話を聞くと至極当然な予想を立てていると思うので、新規に投資するなら決算発表後に株価が落ち着いてからのほうが賢明だと思う。

今年の決算発表で話を聞くと大半の企業で人件費増と原材料高が利益を圧迫する内容が多かった。マーケットでは年前半、「ＡＩで全てが変わる」として酔いしれたが、現実には人が動かないと会社は機能しない。夢から醒めて現実を見て投資すべきだ。



# 企業レター

## 新型一般車両を運行へ

### 近鉄ＧＨＤ

### 10月から奈良、京都、橿原線などで

近鉄の新型車両

近鉄グループホールディングス（９０４１）グループの近畿日本鉄道は、１０月から奈良線、京都線、橿原線と天理線で新型一般車両の運行を開始する。

今回の新型一般車両は、ベビーカーや大型荷物などを持つ乗客が気兼ねなく着席して過ごせるスペース「やさしば」を１両あたり２カ所設置。その他、夏期や冬期の車内保温のために、駅に長時間停車する際に個別に扉を開閉できるスイッチや、混雑状況に応じてロングシートとクロスシートを切り換えることができるＬ／Ｃシート、車内防犯対策として防犯カメラの設置している。さらに、従来車両と比較して消費電力の４５％削減など、安全と環境に配慮している。

# New product

## ハウス食品Ｇ　辛味順位が倍のカレー

### 「選ばれし人気店」から夏季限定製品

選ばれし人気店」〈濃厚ビーフカレー大辛〉

ハウス食品グループ本社（２８１０）グループのハウス食品は「選ばれし人気店」シリーズから大阪・高槻にある「ヴァスコ・ダ・ガマ」監修の＜濃厚ビーフカレー 大辛＞、福岡にある「ツナパハ」監修の＜スリランカカリー チキン 激辛＞をスーパーなどで期間・数量限定で発売している。

今回の夏季限定製品は、通常品と比較して辛味順位が倍となる。通常品と夏季限定製品を食べ比べて、その辛さを体感したい。また、＜濃厚ビーフカレー 大辛＞は胡椒と唐辛子が効いた甘辛さ、＜スリランカカリー チキン激辛＞は唐辛子の強い辛さと、辛さの質が異なる。夏季限定製品同士を比較した辛さの感じ方の違いも味わいたい。内容量は１８０ｇで、オープン価格（税別参考小売価格３６１円）となっている。

記者の視点

# 相場見通し

## エヌビディア決算に注目

### 半導体・AI関連見直し近い

5月3週目の東京市場は2週目に引き続き日経平均では3万8000円接近で押し目を拾う動きが活発化する一方で、3万9000円に接近すると戻り売りに押される動きになり膠着感の強い動きとなった。

4月の米消費者物価指数（CPI）の内容が懸念されていたが、蓋を開けて見ると市場予想を下回る伸びにとどまったことから、FRBが利下げを先送りするとの懸念が後退、これを受けてニューヨーク市場でダウが史上初の4万円に乗せる動きになった。東京市場ではCPI内容を気にして上値が重いとの見方が支配的だったが、ニューヨーク市場はCIP

など経済指標の発表を気にすることなく上昇基調が続いていた。

5月第2週（7日～10日）の投資部門別売買動向（現物）では、個人が3週連続の売り越しの一方で海外投資家が3週連続の買い越しになっていた。CPIを気にしていたのは4万円まで買い上がっていた個人投資家だけで、決算発表をキッカケに売られていた優良株を海外投資家は静かに買っていたのかも知れない。

今週の最大の注目点はエヌビディアの2～4月決算。米国東部時間で22日午後4時20分（日本時間23日午前5時20分）頃で、その40分後に決算会見が予定されているようだ。既に総収入は前年同期の3倍超などの予測が立てられているが、関心が高いのは5～7月以降の動向。年後半にAI向け次世代GPU「GB200」の出荷が始まると既に公表されていることから、ポジティブな内容になる可能性は高い。5000円割れから出直りを見せているアドバンテスト（8857）から半導体やAI関連物色の復活を期待したい。

## 当面のスケジュール

- 20日　3月第三次産業活動指数
  10年物価連動国債入札
- 21日　日銀「金融政策の多角的レビー」に関する第2回ワークショップ開催
- 22日　3月機械受注、4月貿易統計
  米4月中古住宅販売件数
  4/30-5/1開催のFOMC議事録
- 23日　5月auじぶん銀行製造業PMI
  G7財務相・中銀総裁会議
  米4月新築住宅販売件
- 24日　4月消費者物価
  4月全国百貨店売上高
- 27日　日銀の国際コンファランスで植田総裁が開会あいさつ
  独5月Ifo景況感指数
- 28日　4月企業向けサービス価格指数
- 29日　5月消費動向調査
  ベージュブック（米地区連銀経済報告）
- 30日　米1-3月期GDP改定値
- 31日　4月失業率・有効求人倍率、5月東京都区部消費者物価
  4月鉱工業生産、4月商業動態統計
  中国5月コンポジットPMI、中国5月製造業PMI、中国5月非製造業PMI
  米4月個人所得・個人支出・デフレーター

## 編集後記

高齢で足が弱ってきた母のために、テレビ通販でスクワット補助機能付き座椅子を買った。身長に合わせて高さを調整できるというので購入を決めたが、届いてみると一番低い位置に合わせても身長145センチ足らずの母には高すぎて使えない。説明と違うと返品を申し入れると、一度開封すると返品に応じられないという。筆者は通信販売にクーリングオフがないことを知らなかったので、泣き寝入りするしかなかった。

当然、株式投資にクーリングオフはない。銘柄の内容をしっかり確認したい。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。